

『百人一首』の英訳史－1984年からの訳を中心に

English Translations of the *Hyakunin Isshu*, Focusing
on Translations from 1984

Károlyi Orsolya

カーロイ・オルショヤ

要 旨

日本の文学作品で一番多く英訳されている『百人一首』の英訳についての研究は数少ないが、その数少ないものの中に一番多く考察されているのは初期の英訳である。しかし、その後の英訳について言及するものが少なく、川村ハツエ氏の『TANKAの魅力』でも1982年の翻訳までしか紹介されていない。そのため、本稿ではそれ以降の翻訳に焦点をあて、翻訳史をまとめる。英訳を調べながら、その一般的な目的と異なる、英語の勉強を目的とする「バイリンガル本」的な要素を確認できた。この要素はプラスの面もあれば、マイナスの面もある。プラスの面としては、『百人一首』のことを広い読者層に知ってもらえる面があげられる。一方、マイナスの面としては、翻訳の簡略化、和歌の修辞法の省略があげられる。このマイナスの面を考察すべきと考え、本稿では英訳史をまとめてから、『百人一首』の英訳の「バイリンガル本」的な要素についても考察し、簡略化によって和歌の深みが失われてしまう恐れがあると結論付けた。

キーワード：百人一首・英訳・和歌・翻訳・Hyakunin Isshu・English translation・waka・translation

1. はじめに

『百人一首』は初めて英訳された日本の文学作品であり、日本の文学作品の中で英訳された回数も一番多い。F. V. Dickins氏が1865年に初めての英訳を発表してから、

20回以上訳されている。英訳がこれほど多いにもかかわらず、英訳についての研究は極めて少ない。主な研究を挙げると、川村ハツエ氏の『TANKAの魅力』、Nicholas J. Teele氏と吉海直人氏の諸研究（中にはTeele氏と吉海氏の共同研究もある）¹と、Mayer Ingrid Helga氏の博士論文がある²。先行研究にはこれまでの翻訳が既にまとめられているが、完全とはいえず、また新しい訳も次々と作られている。そのため、現在までの翻訳リストを作成し、これから『百人一首』の英訳を研究したい人のために、本稿に載せておく。出版年の後ろに、川村氏の本で触れられているものに「K」、Mayer氏の論文で触れられているものの場合「M」を付けた。

表1 『百人一首』の英訳リスト³

翻訳者	題名	年
1. Frederick Victor Dickins	<i>Translations of JAPANESE ODES from the H'YAK NIN IS' SHIU, (Stanzas from a Hundred Poets)</i>	1865年 (M)
2. Frederick Victor Dickins	<i>HYAK NIN IS'SHIU, or STANZAS BY A CENTURY OF POETS, BEING JAPANESE LYRICAL ODES</i>	1866年 (K) (M)
3. Clay McCauley	<i>Hyakunin isshu (Single Songs of a Hundred Poets)</i>	1899年 (K) (M)
4. Noguchi Yone (野口米次郎)	<i>Hyaku Nin Isshu in English</i>	1907年 (M)
5. Komiya Suishin (小宮水心)	百人一首：欧文訳・小品文訳・五言絶句訳	1908年 (M)
6. Frederick Victor Dickins	<i>A Translation of the Japanese Anthology known as Hyakunin Isshiu, or a Hundred Poems by a Hundred Poets</i>	1909年 (K) (M)
7. William Porter	<i>A Hundred Verses from Old Japan—being a translation of the Hyaku-nin-isshu</i>	1909年 (M)
8. Saitō Hidesaburō (斎藤秀三郎)	百人一首：句々対訳	1909年 (K) (M)
9. Tanaka F. Fukuzo (漢字名が見当たらなかった)	<i>Songs of Hyakunin-isshu Anglicized: Poems of Thirty-one Syllables Known as the "Tanka" or "Waka", Representing the Work of One Hundred Famous Poets and Poetesses of Different Ages</i>	1938年 (M)

10. Honda Heihachirō (本多平八郎)	<i>One Hundred Poems from One Hundred Poets—Being a Translation of the Ogura Hyaku-nin-isshu</i>	1947年 (K) (M)
11. Yasuda Ken (安田健)	歌カルタ百人一首 Poem Card	1948年 (K)
12. Sharman Grant	<i>One Hundred Poets: A Japanese Anthology. Ogura Hyakunin Isshu</i>	1965年 (M)
13. Howard Seymour Levy	<i>Japan's best loved poetry classic, Hyakunin isshu</i>	1976年 (M)
14. Miyata Haruo (宮田明夫)	英訳小倉百人一首	1981年 (K) (M)
15. Tom Galt	<i>The Little Treasury of One Hundred People, One Poem Each</i>	1982年 (K) (M)
16. Marie Myerscough	<i>Poetic Japanese Pottery—An Interpretation of the Ogura Hyakunin Isshu</i>	1984年 (M)
17. Takei Takamichi (武井隆道)	ものぐさ 小倉百人一首	1985年 (M)
18. James Kirkup (監修)	<i>One Hundred Poems by One Hundred Poets</i>	1989年
19. Idei Mitsuya (出井光哉)	<i>The 100 Tanka Poems by the 100 Celebrated Poets</i>	1991年 (M)
20. Steven Carter	<i>One Hundred Poems by One Hundred Poets</i>	1991年 (M)
21. Joshua S. Mostow	<i>Pictures of the Heart—The Hyakunin Isshu in Word and Image</i>	1996年 (M)
22. Peter McMillan	<i>A Translation of the Ogura Hyakunin Isshu—One Hundred Poets, One Poem Each</i>	2008年 (M)
23. Miyashita Emiko (宮下恵美子), Michael Dylan Welch	<i>Hyakunin Isshu</i>	2008年 (M)
24. Stuart Varnam-Atkin	バイリンガル版ちはやふる	2011-2012年
25. Frank Watson	<i>One Hundred Leaves</i>	2012年
26. Peter McMillan	英語で読む百人一首	2017年

本の形になって、出版された完訳だけに絞ると、以上の26訳がある⁴。この他、アンソロジーの中に『百人一首』にも選ばれている歌の訳が含まれており、勅撰集の訳にも『百人一首』に選ばれている歌も訳されている。翻訳された回数に反して、英訳

についての研究の数はあまりにも少ないので、本稿では先学者の研究の後を継ぎ、これまでの『百人一首』の英訳の特徴について考察していきたい。

2. 何故『百人一首』の英訳が多いのか

『百人一首』の英訳が多いのは、決して翻訳者に高く評価されたからではない。むしろ、初期の研究者は文学的な価値を認めなかったように見える。『百人一首』の英訳史について詳しくまとめている川村ハツエ氏が初期の日本研究の先駆者ら、Basil Hall Chamberlain 氏と Arthur Waley 氏⁵の、『百人一首』についての意見を引用している。

B. H. チャンパレンは（中略）「教育を少しでも受けたことのある人は誰でもそれを暗記しているほどである。しかし日本の批評家たちは当然ながらこの皮相的な大衆の判決（評判）を承認しない」（高梨健吉訳）と言っている。

さらに『源氏物語』や『枕草子』の英訳で有名なアーサー・ウェリーに至っては（中略）「ここに選ばれている詩は日本の詩歌の最も面白くない特徴を展示するためのようだ。あらゆる種類の技巧にみちみちており、このような歌を選んで『百人一首』を編集した藤原定家の趣味をほとんど信用するわけにはゆかない。これらの詩は価値もないのに分に過ぎた待遇を受けて日本人の間で広く読まれている。それはひとえに『幸福な家庭』のトランプゲームに使われているという事実によるものだ」⁶

これによると、Chamberlain 氏や Waley 氏は『百人一首』を高く評価していなかったどころか、何の価値もないとまで考えていたのである。その理由は、あまりにも大衆的だったことと、ゲームに使われていることであろう。西洋ではかるたのような、文学を使ったゲームがないため、研究者らが違和感を持っており、ゲームの材料になれるほどの、誰でも知っているような作品に文学的な価値を認められなかったのであろう。それに、『百人一首』は文字通り 100 首の歌しか入っていない。それも 5-7-5-7 の、31 モーラの和歌である。そのため、他の古典の代表的な作品と比べて、Chamberlain らに軽く見られたのであろう。

では、なぜあまり高く評価されていない文学作品を日本研究の先駆者らが調べようと思ったのであろう。この動機について、川村氏が次のように述べている。

高度な文学性は認められないが、日本研究の突破口の一つとして、日本古来の

心を守り続ける詩歌を研究しようとしたのがチェンバレンであり、ウェリーであり最も早くはディキンズであったのではなかろうか。⁷

『百人一首』が日本研究の突破口になれたのは、高く評価されなかった、その短さの故であった。100首の和歌なら、容易に翻訳することができる。そのため、古典作品の翻訳入門として非常に適しているのである。しかし、短いからといって、簡単に翻訳できるとは限らない。選ばれている和歌各々に様々な修辞法が使われている。歌枕、縁語、掛詞などの、歌の意味を深める修辞法を翻訳の中に盛り込むことは、ただ言葉を直訳する場合と比べ、文学としての価値を格段に上げることに繋がる。日本研究の揺籃期には、まだ研究者、翻訳者の、『百人一首』の修辞法に対しての理解度が低かったため、『百人一首』の価値を認めていなかったと考えられる。しかし、研究を積み重ねるうちに、徐々に修辞法の重要性を理解するようになった。この流れは Dickins 訳を通して確認できる。88番の歌、皇嘉門院別当の「難波江のあしのかかりねの一夜ゆゑみをつくしてや恋わたるべき」は Dickins の 1865 年の訳（表 1 のリスト 1 番）では次のようになっている。

But once have I enfolded thee
 For one poor night in scant embrace,
 So short the time thou wert with me,
 It seemed but o'er as brief a space
 As joint of Assi, groving by
 The strand of Naniwa to fly :
 Yet shall my passionate love for thee
 Endure thro' all eternity.

(でも一度あなたを抱きしめた／たった一つの夜、わずかな抱擁／あなたが私と一緒にいる時間がとても短い／短い間隔で終わったように感じた／(その間隔の短さは) アッシの節ほど、生えている／難波に海岸に、飛ぶために／が、私の情熱的な、あなたへの恋が／永遠に耐え偲ばないといけなんでしょう)

1年後の 1866 年の訳（表 1 のリスト 2 番）を見てみると、掛詞のためにこの歌は翻訳不可と記述されており、Dickins 氏は『百人一首』の修辞法の難しさにやっと気がついたのであろう。最後の、1909 年の訳にはまた次のように訳している。

For one brief slumber

scant as a joint of marsh-reed
 by Naniwa growing
 must I through all my life-days
 be sick of love for thee?

(一つの短い眠りのため／わずか、葦の節のように／ナニワで生えている／私の
 これからの人生でずっと／あなたのために恋煩いでいないといけないの?)

この歌の訳の流れを見てみると、Dickins 氏が徐々に歌の技法の複雑さに気づいたことがわかる。この歌には掛詞が三つも使われている。①「かりね」に「刈根」と「仮寝」、②ひとよに「一夜」と「一節」、③みをつくしに「滞標」と「身を尽くし」が掛けられている。初訳のころ、まだ日本語学習歴、和歌の研究歴が短かったころの Dickins 氏が掛詞をどう考えていたかについて、残念ながら記述が見られないが、注に掛詞についての言及はなく、①の「かりね」(scant embrace)、②の両方 (one poor night, joint) を訳し、③を省略している。1866年の訳では掛詞の複雑さに気づき、訳せないほど難しいと判断し、この一首だけを訳から省いている。1909年になると、Dickins 氏の最後の訳が出版される。Dickins 氏は1838年に生まれ、この時71歳である。この歳になると、もう二度と『百人一首』を訳すチャンスがないと思ったのか、この本に88番歌の訳も載せ、①の「刈根」(brief slumber)と②の「一節」(joint)のみを訳出し、③を省略している。「この歌は言葉遊びがたくさん詰められていて、複数の意味の翻訳が可能である。」と解釈で記述している⁸。他の訳者も『百人一首』の技法への意識が高まり、McCauley や Porter は『百人一首』を強く批判していない。その後、技法の翻訳が困難であろうとも、コンパクトな『百人一首』は年々翻訳が増え続け、2017年にも McMillan 氏の訳が出版され、日本の古典文学の翻訳者にとっても「突破口」の役割を果たし続けてきた。

3. 1990年代からの翻訳

「はじめに」であげた英訳の研究は、主に初期の英訳について考察している。Teel 氏らは初期の翻訳を中心に研究し、川村氏の本も1982年の Galt 訳で終わっている。Galt 氏以降の訳についての研究が見られるのは、Mayer 氏の論文のみである。Mayer 氏も、いくつかの訳について記述がないため、本章では Galt 氏以降の訳を取り上げたい。また、4章ではそれぞれの翻訳の技法への理解や特徴についても触れる⁹。

Galt 氏の次に出版されたのは、1984 年の Marie Myerscough 訳である。Myerscough 訳は『Poetic Japanese Pottery—An Interpretation of the Ogura Hyakunin Isshu 小倉百人一首作陶集』に載っている。この本は陶芸家である新山光哉氏の、『百人一首』の歌をイメージした作品と、Myerscough の訳が並んで載っている。序文の中に、翻訳方針について次のことが書かれている。

「英訳は逐語訳のつもりではなかった。(中略) それよりも、この本では一般の読者、特に陶器の愛好家に、歌の主題を伝える翻訳を作るつもりであった。(中略) 指針は、主題がどれだけ詩趣的英語で伝わるのかと、どれだけ新山光哉さんの、陶器に表れている歌の解釈を表しているのかであった。」

つまり、Myerscough 氏にとって、翻訳の際、重要なのは以下の二つの点であった。

1. 一首一首の歌の主題を見つけ、それを読者に伝える。つまり、一つ一つの単語の意味、歌の技法などにこだわらずに、歌全体の意味をつかんで、それを読者に伝える。
2. 歌の主題として重視されたのは、歌人でも選者定家でもなく、新山氏の解釈であり、英訳は新山氏の解釈を表すために作られた。

これについて新山氏は英語の序文で次のように述べている。

「私の作品を観て、わからないことがあれば、それをおそらく歌の英訳の中に見つける。同じく、歌にすぐはつきりしないところがあったら、私の作品を観ればよい。作陶と歌が補い合う。」

如上のように、この翻訳本は作者の解釈でも、選者の解釈でもなく、陶芸家である新山氏の作品に表れている解釈を重視している、非常に珍しい英訳である。

次の翻訳は今野幸一郎氏の 1985 年出版の『ものぐさ小倉百人一首』に載っている武井隆道氏の訳である。この本は、表紙だけを見ると、英訳が載っていることに気づかない。なぜならば、英語のタイトルもなく、「英訳付き」など、英訳が載っていることを示す言葉が一つも書かれていない。本を開いて見てみると、歌の「歌意」「語句」「鑑賞」がすべて日本語になっており、下に散文の英訳が載せられている。「本書への誘い」を読んでも、日本人の高校生向けの本であると分かる。その中に「末筆ながら、英訳を東大で独文学を専攻された武井氏にお願いし、「ものぐさ」の手すさびに彩りを添えて戴いたのを感謝する。」と、英訳についての記述も載せられてい

るので、狙いは恐らく、受験生の英語力をあげることであろう。

次の訳は1989年のJames Kirkup監修の本であり、この訳についてMayer氏の論文に言及が見当たらない。英訳は北海道室蘭清水丘高等学校の当時の2年生が作ったもので、Kirkup氏がそれを修正したのである。翻訳過程については、「古文を現代文に、現代文を短縮し、それを英訳するという三重の作業が続きました。」と述べられている¹⁰。それをKirkup氏が修正しているので、英語の違和感は当然ない。しかし、歌の解説などは日本語になっている。このことから英語話者ではなく、日本語話者を対象にしていることがわかる。

1991年に二つの翻訳が出版された。その一つはIdei訳である。この訳も、歌の解説など、全て日本語になっており、英語話者を対象としていないようにみえる。しかし、「あとがき」に「さらには広く外国の人々にも、『百人一首』に親しみ楽しんでもらえないものだろうか—と考へて、英語訳を付してみました。」と述べ、対象は日本語・英語話者両方であったことがわかる。

もう一つはカリフォルニア大学の日本語学教授Carter訳である。参考文献に目を通すと、翻訳の際に複数の文献を使用したことがわかる。その中に、上述の『百人一首』翻訳リストにも載っているLevy訳、Galt訳も見られる。この本には他の作品の訳も載っているが、全ての作品の説明が英語になっており、Idei訳と違って、英語話者を対象にしている。

1996年になると、Mostow氏による『百人一首』の訳が出版される。和歌、特に『百人一首』の翻訳では詳しい解釈が付けられているものが少ないが、Mostow氏が初めて123頁に渡り『百人一首』、和歌の翻訳、『百人一首』の映像化について詳しく考察している。また、全ての歌に解釈を加え、その中に歌の意味だけではなく、技法についても述べている。また、他の訳に比べると、歌人についての情報量も圧倒的に多い。付録で『百人一首』の古注釈のリストと説明まで付けており、『百人一首』の背景を深く知りたい読者に現在までにこれ以上適当な翻訳本はない。

Mostow氏の次に翻訳が発表されるのは2008年である。この年は、1991年と同じく、二つの訳が発表されている。一つはMcMillan氏の訳である。McMillan氏はMostow氏ほどではないが、『百人一首』各々の歌と歌人について解釈を付けている。この訳がDonald Keene氏に高く評価された。

もう一つは、Miyashita氏とWelch氏の訳である。序文は日本語・英語両方が載っ

ているが、歌の解説は日本語でしかされておらず、対象としている読者層が明らかではない。また、全ての歌に写真が付け加えられている。しかし、その写真が歌の内容とほぼ合わないので、写真を載せた理由も明らかではない。

次の訳は2011年–2012年の Varnam-Atkins 訳であり、Mayer 氏はこの訳についても言及していない。実はこれも『ものぐさ百人一首』と同じく、表紙だけを見ると、中に英訳があることに気づかない。なぜならば、漫画『ちはやふる』のバイリンガル版の最後に載せられているからである。『ちはやふる』は末次由紀作の、競技かるたをテーマにしている漫画である。この漫画は海外でも人気を得て、かるたと『百人一首』の海外普及に大きく影響している。バイリンガル版は2冊からなり、1冊目に50首、もう1冊目に残りの50首が載っている。

2012年にもう一つ、Mayer 氏の研究で紹介されていない訳がある。それは、Watson 氏の翻訳本である。Watson 氏は歌の解釈と、単語毎の意味も載せている。しかし、解釈がある歌と、ない歌があり、歌の選別の理由は明らかではない。また、1単語ずつ意味を載せているが、単語の古語の意味だけではなく、現代語の意味も載せている例も見られる。

現時点で最も新しい訳は McMillan 氏の2017年の訳である。これは、2008年の訳を改訳したものであるが、この訳については章5で詳しく考察する。

4. 訳者の修辞法への理解、翻訳の特徴

和歌を翻訳する際には修辞法、形式などを目標言語でどう表すかが、大変重要である。本稿ではすべての英訳について詳しく考察することができないが、それぞれの訳の特徴的な訳し方をあげておきたい。

まず、Myerscough 氏の訳だが、翻訳例として柿本人丸の歌、3番の「あしびきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む」を見てみよう。Myerscough 氏の訳は3行から5行までなるが、この歌は最短の、3行のものである。

Long like the mountain pheasant's tail-

How this night drags on

That I must sleep alone.

(山キジの尾のように長い／夜がなんと引きずっている／私は一人で寝ないといけない)

和歌の翻訳では形式や分量が異なるのは珍しくない。よくあるケースは、掛詞などの複数の意味を入れる、または読者にとって分かりにくいと思われるところの意味を説明するため、分量が増えるといったことである。しかし、ここで逆の現象を確認できる。文章が元作品に比べて短くなっている。その理由の一つは、枕詞の一部の省略である。「あしびきの」全体を翻訳していないが、「ひき」を「drag」（ひきずる）として訳している。もう一つは序詞の省略で、山鳥の「しだり尾」が省略されている。他の訳者に比べて短いのは、Myerscough 訳の特徴であろう。

武井氏の訳は行分けが特にされておらず、散文風に書かれている。分量は多岐にわたり、内容を簡単にまとめるものから、解説も翻訳に入れ込んでいるものまでである。英訳でも 5・7・5・7・7 のような形式を用いると、修辞法の翻訳が難題である。散文的な翻訳の長所は、固定された形式でないため、歌内の修辞法の説明も制限されていない。しかし、武井氏は散文訳にしてはかなり短い訳も作っており、形式の長所をあまり活かしていないようにみえる。例として、2 首をみていきたい。6 番、中納言家持の「かささぎの渡せる橋におく霜の白きを見れば夜ぞふけにける」と、72 番、祐子内親王家紀伊の「音にきく高師の浜のあだ波はかけじや袖のぬれもこそすれ」は両方暗喩の歌である。前者は、「宮中の御階」を七夕伝説の「かささぎの渡せる橋」に例えており、後者は「海の涙で濡れた海人の袖」を作者の「涙に濡らされた袖」に例えている。武井氏はこの 2 首を次のように訳している。

6 番 : On the stairways of the palace, which remind me of the legendary bridge laid by magpies across the Milky Way, the hoar frost has turned whiter ; by sight of which I know that the night is advanced.

(宮中の階段に、(その階段はあの伝説の、かささぎたちが天の川に架けた橋を思い出させる) おいた霜がもっと白くなった。これを見てわかる、夜が更けたことを。)

72 番 : The wanton waves at Takashi, roaring high, I will never be touched by them, for fear my sleeves should be wet.

(タカシで浮気っぽい波が高く轟く。私は(波に)触られない。袖が濡れるのが怖いから。)

前者は比喩が説明されているが、後者は「袖が海に濡れる＝涙に濡れる」という比喩について、また波と浮気っぽい相手の比喩について翻訳では説明されていない。せ

っかくの散文訳の一番の長所があまり活かされていないように思える。

Kirkup 氏監修の英訳は、多くの高校生の手によって作られたので、それぞれの歌は、訳者によって重視されている点が異なっている可能性がある。しかし、Kirkup 氏がすべての翻訳を確認し、修正しているので、統一性があるといえよう。Kirkup 氏によると、72 番の歌は特に困難であった。上述の Idei 訳の箇所を既に紹介したので、ここでは英訳とその日本語逐語訳のみをあげる。

I shall avoid Takashi Strand,
So famous for waves that wet our sleeves.
I do not want them
To be wet with tears.

(タカシの浜を避けよう／(そのタカシの浜は) 私たちの袖を濡らす波で有名／
(袖が) 涙に濡れてほしくない)

Kirkup 氏が翻訳で何が困難だったか、具体的に述べていないが、恐らく「高師のあだ波」+「浮気で名高い相手」と、「海に濡れる袖」+「涙に濡れる袖」の、二つの比喩が用いられていることであろう。この訳では「海に濡れる袖」+「涙に濡れる袖」は訳されているが、「高師のあだ波」+「浮気で名高い相手」の中で前者しかやくされていない。ただし、後者が暗示されている。また、この訳本にはそれぞれの歌に絵がついている。絵のほとんどが、歌の主題を表そうとしており、72 番には水の中で立って、泣いている女性の絵がつけられている。絵によって、歌の主題が強調されているのは、この訳の一つの特徴であるといえよう。

Idei 訳は Kirkup 監修訳と同じく、絵がつけられているが、絵の登場人物が Kirkup 監修訳より多く、歌の意味を漫画的に説明している。Kirkup 監修訳の絵は、そこまで具体的に意味を表していないので、想像に任されている解釈があるが、Idei 訳の絵はかなり歌の意味を限定している。例えば、紀貫之の 35 番歌、「人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香ににおひける」は、その好例である。この歌の解釈について吉海直人氏を引用しておきたい。

「贈答歌の相手を女性（恋人）と見る説（折口信夫等）も、皮肉の応酬と見る説も、ともに言葉の表面だけしか見ておらず、贈答歌の本質というか、虚構の面白さやその裏に込められている親密さを読み切れていないのである。（中略）定家はこの歌を『古今集』の詞書の束縛から解放し、一首の独立した詠歌（独詠）と

して中世的再解釈を行ったと考えたい。つまり故郷の春を背景に「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」（「代白頭吟」）という漢詩を踏まえ、不変の自然（梅花）と移ろいやすい人の心とを対照的にとらえ、なおかつ一首の中に人生の無常・詠嘆を余情として内包させているのではないだろうか（注 吉海直人『百人一首の新考察』世界思想社 1993年）

つまり、その「人」は女性であるかどうかよりも、百人一首的な解釈としては「人間」と「自然」の対照が重要であることであろう。しかし、Idei 訳の絵には梅の花の匂いを悲しい表情で嗅いでいる男性（作者）と女性が描かれており、それをみると、歌の解釈が「女性説」に限定されてしまう。このように、歌の理解を促そうとしている絵が、実は大事な解釈を塞げてしまうことになる。

Carter 訳については、歌枕の特殊な訳し方を紹介したい。歌枕は簡単に言えば、和歌に詠まれている地名である。訳し方としては、その地名の意味を訳す方法と、訳さないでローマ字に書き換える方法が一般的である。そこで Carter 氏は 8 番、喜撰法師の「わが庵は都のたつみしかぞ住む世をうち山と人はいふなり。」を次のように訳している。

In my little hut
southeast of the capital,
I live as I wish-
and yet I hear this place called
Ujiyama, Bitter Hills.

（私の小屋で／都の南東に／自分が好きなように生きてい／だが、ここはこう呼ばれていると聞いた／ウヂヤマ、辛い山）

この歌では「うち山」の「うち」に「憂し」が掛けられている。普段は歌枕が上述の方法どちらかで訳されているが、Carter 氏は掛詞であることを強調したく、「Ujiyama」とローマ字に置き換えてから、その地名を「Bitter Hills」（辛い山）とも訳出している。これは歌枕の訳し方として大変珍しい例である。

百人一首には、男が女に成り代わって読んだ歌が少なからずある。その一つは、選者定家の 97 番「来ぬ人を松帆の浦の夕なぎに焼くや藻塩の身もこがれつつ」である。訳のほとんどでは、女の歌であることが訳出されていないが、Mostow 氏がこの歌を女歌と意識し、それを珍しく訳にも出している。

For the man who doesn't come
 I wait at the Bay of Matsuo—
 in the evening calm
 where they boil seaweed for salt,
 I, too, burn with longing!

(来ない男のため／松帆の浦で待っている／夕風の時／あそこで塩（を作る）ため海藻が茹でられている／私も、燃えるように恋い焦がれている)

このように、訳中に女歌であることを訳出しているのは、Mostow 氏のみである。

次の McMillan 氏の英訳を Keene 氏が高く評価したと述べたが、その理由は McMillan 氏の新しい翻訳方針にある。McMillan 氏は形式にこだわらずに、内容に沿って歌の形式を変えている。これの好例は、蟬丸の 10 番歌「これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬも逢坂の関」の訳である。

So this is the place!

The crowds,
 coming
 going
 meeting
 parting ;
 friends
 strangers,
 known
 unknown-

The Osaka Barrier

(そうか。ここはあの場所／人込みが／来たり／行ったり／会ったり／別れたり
 ／友人／見知らぬ人／知る／知らない／逢坂の関)

McMillan 氏は最初と最後の行以外、全ての行に 1 単語しか書いていない。「長書き」することによって、逢坂の関の人々の流れを言葉だけではなく、形でも表現している。同じ表現法は、例えば 3 番の人丸歌の訳でも同様に、夜の長さを英訳の「長書き」で表している。こういった表現法は McMillan 氏の 2008 年の訳の特徴である。

Miyashita 氏と Welch 氏の翻訳本は半分写真集だと言ってもいい。この意味で、

Myerscough 訳と同類のものである。しかし、この訳で気になる点は、その写真の選び方である。本来ならば、歌に関係ある写真を選ぶはず。しかし、ここでは多くの写真が歌とあまり関係がないように思われる。例えば、3番目歌に出てくる「山鳥」はキジ類の鳥であるにもかかわらず、写真の鳥はサギである。このように、翻訳と写真が対応しておらず、写真の必要性が疑える。

Varnam-Atkins 訳の特徴は、すべての歌を押韻二行連句で訳していることである。これによって、訳に統一感が出ており、リズムカルな訳になる。たとえば、65番の、相模の歌、「恨みわびほさぬ袖だにあるものを恋に朽ちなむ名こそ惜しけれ」は次のように訳されている。

My love for you is not returned,
So my sleeves are never dry —
But most it's for my tainted name
That I cry and cry and cry . . .

(あなたへの恋は片思い／だから、私の袖が乾く暇もない／でも、一番の理由は私の朽ちた名前／だから泣く、泣く、泣く...)

Watson 訳には、古文のを現代語として理解しようとしている例が多くみられる。例えば、阿倍仲麿の7番歌、「天の原ふりさけ見れば春日なるみかきの山に出でし月かも」の「逐語ノート」のところに、「かすがる」を「Kasuga becomes」と訳している。この「なる」は古語の「にある」意味をもつ助動詞であるにもかかわらず、Watson 氏が現代語の動詞、「なる」の意味と誤解している。こういった例が複数あり、翻訳者の古文の知識の無さが浮き彫りになっている。もちろん、『百人一首』の全ての翻訳者が古語を完全に理解しているわけではないが、そういった場合、逐語訳を元にし、訳す方法が一般的である。しかし、Watson 訳の場合、翻訳の際にこのような過程がなく、校正もされていないのは明らかであろう。

5. 英訳学習のための『百人一首』翻訳

2章で引用した、川村氏の言う、「突破口」は、文学史の中で『百人一首』を説明するのに一番相応しい単語であろう。編まれてから、日本人の中で勅撰集の入門書として利用されてきたとともに、書道の入門書でもあった。19世紀に西洋の研究者が日本文学に興味を持ち始め、『百人一首』はほとんどの日本人に知られていることに

気づいたため、日本人の一般知識として西洋に伝えるべき、研究・翻訳の「突破口」となった。また、この流れが現在まで続き、長年翻訳されてきた。

これらの他、もう一つの、今まであまり議論されてこなかった『百人一首』の「突破口」がある。それは、「英語の突破口」である。翻訳は一般的に「起点言語」から「目標言語」に訳し、目的は「起点言語」を話せないが、「目標言語」を話せる読者がその文書を読める・理解できることであると言えよう。しかし、『百人一首』の英訳の中にそうでないものも多くみられる。Mayer氏が論文に小宮水心氏の訳が英語話者を対象としていないものであると指摘している。前章でも指摘したように、その他にも、複数の、日本人を対象にしている訳がある¹¹。翻訳本は英語話者を対象にしているのであれば、歌の解釈は英語で書かれているはずである。しかし、小宮訳や、前章で紹介した幾つかの訳に英語解釈が書かれているところが見当たらず、日本語解釈がつけられているため、対象としているのは日本人、または日本語が話せる読者であることは明らかである。もう一つの20世紀の例として、上述の翻訳リストに載っていない翻訳本を見てみよう。

1941年に吉田龍英氏の『百人一首解説 A HUNDRED POEMS OF OLD JAPAN』が出版されている¹²。翻訳リストに載っていない理由は、英訳は吉田氏が作ったものではなく、Porter訳が載せられているからである。吉田氏が108頁に

「本書の英文は底本として W. N. Porter の譯を用いたが特に固有名詞につき誤訳と思われる所が可成あったので適宜書き改めておいた。」

と述べている。改めた箇所については、例えば Porter 訳の24番歌に「手向山」を「Tamuké」と表示され、それは吉田氏の本に「Tamuke」に修正されている。こういった修正以外に吉田氏は手を加えておらず、そのまま Porter 氏の訳を使っている。本の目的について記されていないが、英単語に日本語が付け加えられていることから、読者の英語の練習になると、吉田氏が思っていたのであろう。しかし、単語の半分ほどにしか日本語を書いていないので、どのような方針で日本語を付けたか、明らかではない。

21世紀の訳の中で、日本語話者を対象にしている英訳では一番興味深いものは McMillan 氏の2017年の訳である。McMillan 氏は2008年に英訳を出版しており、その訳が Donald Keene 氏にも高く評価され、McMillan 訳の序文に「現在まで『百人一首』の一番いい翻訳である。」と述べている。

McMillan 氏が 2017 年に自分の翻訳を改め、日本語話者を対象に、日本で出版している。自分の訳について McMillan 氏が「なるべく分かりやすく、誰でもわかる訳を心掛けました」と述べている¹³。では、2008 年の、英語話者を対象にしている訳に比べて訳がどう変わったか、88 番の歌を例にして見てみよう。

McMillan 2008 年

For the sake of one night

on Naniwa Bay

short as the nodes

of a reed cut at the root

what is left for me?

Like the wooden

channel markers

out in the sea

must I, too,

wear myself out

pining for my love?

(一夜のため／難波湾で／根で切られた葦の／節のように短い／私に何が残された？／木でできた／潯標／遠く海に／私も／身を尽くすべきか／恋焦がれて)

McMillan 2017 年

For the sake of one night

on Naniwa Bay,

short as the nodes

of a root-cut reed,

must I love you with all my heart?

(一夜のため／難波湾で／根切れの葦の／節のように短い／私があなたに心から恋をしないとけない?)

McMillan 氏が 2008 年の訳に 88 番歌の掛詞①の「刈根」(cut at the root)、②の「一夜」(one night) と「一節」(nodes)、③の「潯標」(wooden channel markers) と「身を尽くし」(wear myself out) を、つまり三つの掛詞の六つの意味の内 5 つを訳出している。それに対して 2017 年の訳は①の「刈根」(root-cut) と②の「一夜」(one

night) と「一節」(nodes) をしか訳していない。つまり、六つの意味から三つが省略されている。2008年の訳に比べて、McMillan 氏曰く「分かりやすく」なっている。しかし、分かりやすさのために技法が犠牲になってしまう。もちろん、掛詞の意味全てが訳されているからと言って、良訳になるわけではない。むしろ、分かりやすい訳は一般の読者や、英語を母国語としていない読者も楽しむことができる利点がある。しかし、技法が省略されると、歌の意味の深みが消えてしまう恐れがある。だが翻訳の目的が英語の勉強なのであれば、翻訳を分かりやすくせざるを得ない。そのため、英語の勉強を目的とする翻訳は、必然的に簡略化されてしまうという危険性がある。

6. 終わりに

初期の研究で『百人一首』はあまり高く評価されていなかった。それは、文学性が認められていなかったためや、作品の短さと一般における人気のためであった。しかし、翻訳者が次第に修辞法の価値を認め、『百人一首』の価値を疑う声が聞こえなくなった。短いからこそ、翻訳に非常に適しており、複数回英訳されてきた。翻訳者に外国人だけではなく日本人も存在し、文人から研究者まで多くの人々が関わってきた。

1984年の Myerscough 訳をはじめとする 11 訳の中に英語話者を対象としていないと思われるものが 4 訳見つかった。このような訳は既に 1908 年にも確認でき、『百人一首』の英訳の中に一般的な文学作品の翻訳目的と異なる、「バイリンガル本」的な、英語の勉強を目的とする要素がある。

『百人一首』が現在も人気を保っているのは、多様性のおかげであろう。歴史の中で書道の入門書として使われたり、かるたとなって遊び道具として使用されたり、今でも国内国外で古典の教材として使われている。筆者もハンガリーの学部時代、『百人一首』を通して古典文法を習ったことがある。このような多様性から、『百人一首』の英訳が、英語の勉強のためという本来とは異なる目的が生まれたのも、驚くべきことではない。しかし、『百人一首』をこのように利用することは、和歌本来の味わいを損なうことに繋がってしまう。McMillan 氏の例のように、修辞法が省略されると、元歌に隠された意味を充分読み取ることができない。これはプラスの面もあれば、マイナスの面もある。プラスの面は、簡略化されたおかげで英語を母語としていない読者も翻訳を理解することができ、『百人一首』を知るきっかけになり得ることである。しかし、このプラスの面は研究者の目で見ると、マイナスな面になってしまう。本来

和歌の魂である修辞法が省略され、和歌の意味を十分に理解することができなくなるからである。簡略化のため『百人一首』の読者層が広がったとしても、修辞法の省略を招き、元作品に比べて文学性が薄まる。よって、もはや元作品と別のものに変貌してしまう。そのため簡略化を避けるべきであると考える。

注

- 1 吉海直人、Teele, Nicholas J. 『英訳百人一首の比較対照研究（資料編）同志社女子大学総合文化研究所紀要 第11号 1994年；Teele, Nicholas J. 『英訳百人一首の比較対照研究（1）*English Translations of the Hyakunin Isshu*（1）：*Methodology and the Early Translations*』同志社女子大学学術研究年報 1996年；Teele, Nicholas J. 『百人一首』の英訳について（2）最初の日本人の英訳 *English Translations of the Hyakunin Isshu*（2）：*The Early Translations by the Japanese*』同志社女子大学学術研究年報 2002年；吉海直人編・解説『英訳百人一首』百人一首研究資料集 第5巻 クレス出版 2004年；Teele, Nicholas J. 『英訳百人一首の世界』百人一首万華鏡 思文閣出版 2005年；Teele, Nicholas J. *F. V. Dickins and the Hyakunin Isshu*. 同志社女子大学総合文化研究所紀要 24号 2007；吉海直人、Teele, Nicholas J. 『英訳百人一首研究史展望 *Historical Research of English Translations of the Hyakunin Isshu*』『同志社女子大学総合文化研究所紀要』25号 2008年
- 2 Mayer Ingrid Helga 「『百人一首』の英独語版を通して見る和歌の翻訳」2016年
「https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/61579/1/Mayer_Ingrid.pdf」
- 3 『百人一首』の完訳のみをリストアップしている。リストの書誌情報が時代順で以下の通りである。また、リストには初出版の年が記載されているが、利用資料に初出版でないものも含まれている。
 1. Summers, James (ed.) *Translations of JAPANESE ODES, from the H'YAK NIN IS'SHIU, (Stanzas from a Hundred Poets.)* By a Medical Officer of the Royal Navy. *The Chinese and Japanese Repository of Facts and Events in Science, History, and Art, Relating to Eastern Asia.* (Volume II) London, 1865年；
 2. Dickins, Frederick Victor, *Hyak'Nin Is'shiu, or Stanzas by a Century of Poets, being Japanese Lyrical Odes.* Smith, Elder & Co, London, 1866年；
 3. MacCauley, Clay, *Hyakunin-Isshu*

(*Single Songs of a Hundred Poets*) and *Nori no Hatsu-Ne* (*The Dominant Note of the Law*). Kelly and Walsh, Ltd., Yokohama, 1917 年；4. Noguchi, Yone, *Hyaku Nin Isshu in English*. 早稲田文学 17 号 (1907 年 5 月 1 日) 19 号 (1907 年 6 月 1 日) 21 号 (1907 年 8 月 1 日) 22 号 (1907 年 9 月 1 日) 5. 小宮水心『百人一首 欧
文訳・小品文訳・五言絶句訳』石塚書舗、大阪 1908 [http://dl.ndl.go.jp/info:
ndljp/pid/874031]；6. Dickens, Frederick Victor, *A Translation of the Japanese Anthology known as Hyakunin Isshu, or a Hundred Poems by a Hundred Poets*. Journal of the Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland. 1900 年；7. Porter, William M.; *A Hundred verses from Old Japan being a translation of the Hyaku-nin-isshu*. Clarendon Press, 1909 年；8. 斎藤秀三郎『百人一首：句々対訳』興文社 1909 年；9. Tanaka, F Fukuzo, *Songs of Hyakunin-isshu Anglicized: Poems of Thirty-one Syllables Known as the "Tanka or "Waka", Representing the Work of One Hundred Famous Poets and Poetesses of Different Ages*. Trade Pressroom, 1938 年；11. Honda, Heihachiro, *One Hundred Poems from One Hundred Poets—Being a Translation of the Ogura Hyaku-nin-isshu*. . The Hokuseido Press, 1956 年；12. 安田健『歌カルタ百人一首 Poem Card』鎌倉文庫 1948 年；13. Sharman, Grant, *One Hundred Poets: A Japanese Anthology. Ogura Hyakunin Isshu (Eiyaku)*. Monograph Committee, 1965 年；14. Levy, Howard Seymour, *Japan's best loved poetry classic, Hyakunin issu*. Warm-Soft Village Publications, 1984 年；15. 宮田明夫『英訳小倉百人一首』大阪教育図書 1981 年；16. Galt, Tom, *The Little Treasury of One Hundred People, One Poem Each*. Princeton University Press, 1982 年；17. Myerscough, Marie, Niiyama, Mitsuya, *Poetic Japanese Pottery—An Interpretation of the Ogura Hyakunin Isshu*. 『小倉百人一首作陶集』Shufunomoto, 1984 年；18. 野幸一郎著、武井隆道英訳『④ものぐさ 小倉百人一首』右文書院 1985 年；19. Kirkup, James (監修), 『英訳百人一首 *One Hundred Poems by One Hundred Poets*』北海道室蘭清水丘高等学校 1989 年；20. 出井光哉著『プラス英訳百人一首』風塵社 1991 年；21. Carter, Steven :, *One Hundred Poems by One Hundred Poets*. In : *Traditional Japanese Poetry: An Anthology*. Stanford University Press, 1991 年；22. Mostow, Joshua S; *Pictures of the Heart—The Hyakunin Isshu in Word and Image*. University of Hawai'i Press, 1996 年；23. McMillan, Peter; *A Translation of the*

- Ogura Hyakunin Isshu—One Hundred Poets, One Poem Each*. Columbia University Press, 2008 年；24. 高岡一弥編、高橋陸郎文・解説『百人一首』ピエ・ブックス 2008/Miyashita, Emiko；Welch, Michael Dylan : 100 Poets : Passions of the Imperial Court. PIE Books, Tokyo, 2008 年；25. Varnam-Atkin, Stuart, 『百人一首の英訳』 in. バイリンガル版ちはやふる一・二 Kodansha Bilingual Comics 2011 年、2012 年；26. Watson, Frank； *One Hundred Leaves*. Plum White Press, 2012 年；27. McMillan, Peter, 『英語で読む百人一首』文春文庫 2017 年
- 4 McCauley 訳はバージニア大学の改訂版も現存している。[<http://jti.lib.virginia.edu/japanese/hyakunin/>] を参照。
 - 5 Basil Hall Chamberlain (1850 年～1935 年) は日本研究の先駆者であった。Arthur Waley (1889 年～1966 年) は『源氏物語』の英訳で知られている漢学者、東洋学者であった。
 - 6 川村ハツエ『TANKA の魅力』七月堂 1992 年 235-236 頁
 - 7 川村ハツエ『TANKA の魅力』七月堂 1992 年 241 頁
 - 8 Frederick Victor Dickens, *A Translation of the Japanese Anthology known as Hyakunin Isshiu, or a Hundred Poems by a Hundred Poets*, Journal of the Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland 1909 年 376 頁
 - 9 技法の翻訳についてカーロイ・オルショヤ『「浅茅生の小野の篠原」の英訳の問題点と新しい翻訳の試み—『百人一首』翻訳論その一』古代文学研究第 2 次第 25 号 2016 年、『掛詞の翻訳の問題・「さよふけて」をめぐって：『百人一首』翻訳論(その 2)』同志社女子大学日本語日本文学 29 号 2017 年、『「百人一首」「あしびきの」歌の性別と翻訳』解釈 63-9, 10, 2017 年] を参照。
 - 10 似たようなプロジェクトで『百人一首』が大阪大学ハンガリー語専攻の学生らにハンガリー語訳されている。
 - 11 小宮訳以外は斎藤秀三郎訳、武井隆道訳、James Kirkup 監修の『百人一首』訳、Miyashita-Welch 訳と、2017 年の McMillan 訳がある。
 - 12 時期は第二次世界大戦最中である。具体的な発行日は 12 月 15 日、日本が英米に宣戦布告する 1 週間後であったので、このような状況の中でも英訳の本が発行できたのは重大なことである。
 - 13 京都新聞 2017 年 6 月 26 日 15 頁